

救急医療について

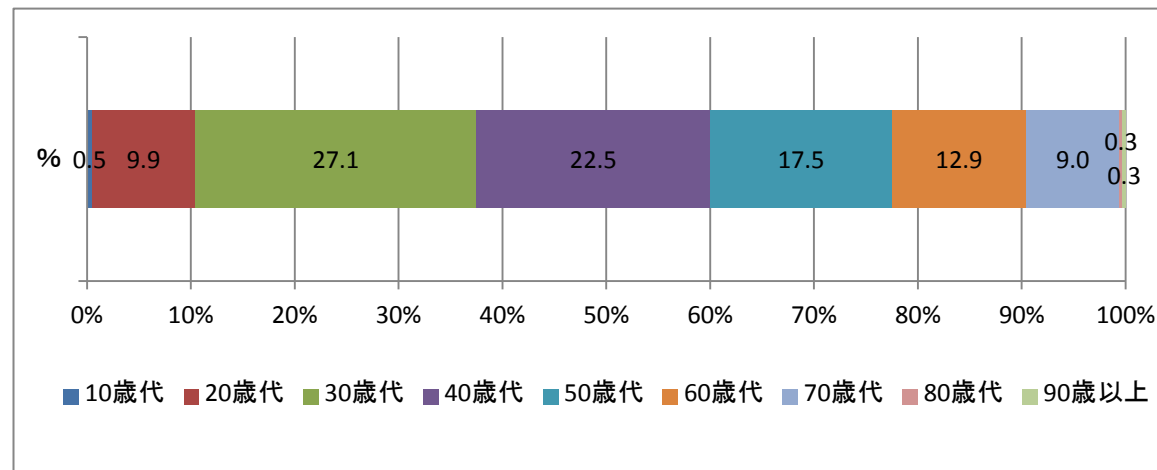
□調査期間 平成27年2月26日～平成27年3月8日

□調査の趣旨 和歌山市内の医療機関、特に重篤な救急患者を担う医療機関に、直接受診している患者のうち約半数以上が比較的軽症な患者であるという現状が続いています。この状態が続くと、救急医療が破綻することになりかねません。本当に必要な方が必要な医療を受けられる医療体制の構築及び維持していくために、皆さまの医療への意識、特に急病時の受療についてのご意見をお願いします。

□対象者数 365 人(平成27年2月26日現在)

(図および表中の比率は、少数点第2位を四捨五入して表示しています。したがって、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。)

内訳	人数	%
10歳代	2	0.5
20歳代	36	9.9
30歳代	99	27.1
40歳代	82	22.5
50歳代	64	17.5
60歳代	47	12.9
70歳代	33	9.0
80歳代	1	0.3
90歳以上	1	0.3
合計	365	100.0

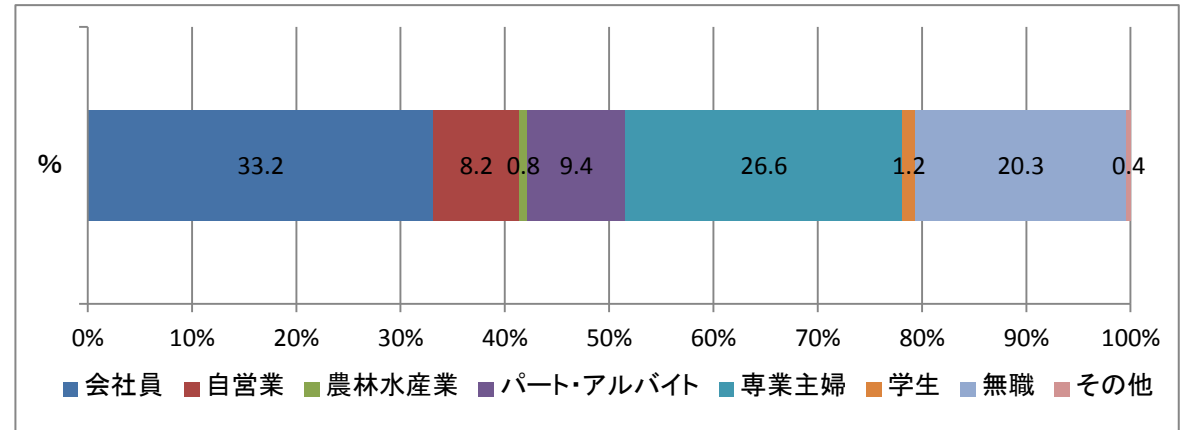


□回答者数 256 人

□回答率 70.1 %(平成27年3月8日)

【ご職業】

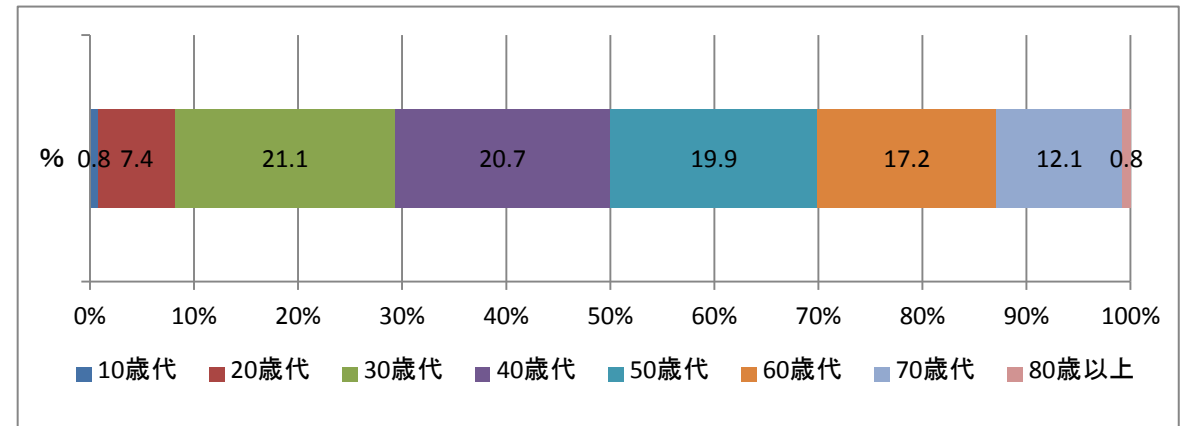
内訳	人数	%
会社員	85	33.2
自営業	21	8.2
農林水産業	2	0.8
パート・アルバイト	24	9.4
専業主婦	68	26.6
学生	3	1.2
無職	52	20.3
その他	1	0.4
合計	256	100.1



その他のご職業
・団体職員

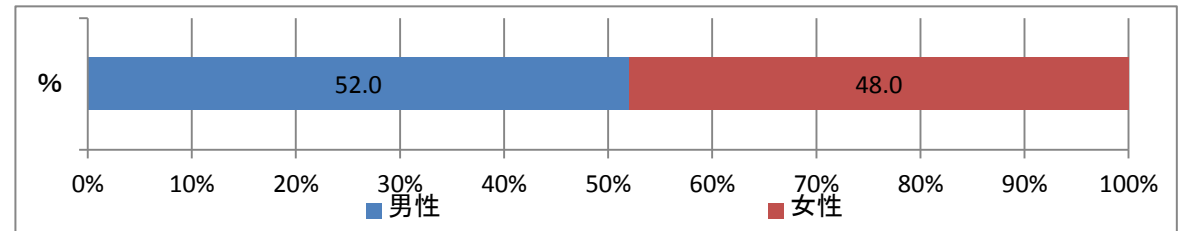
【年齢】

内訳	人数	%
10歳代	2	0.8
20歳代	19	7.4
30歳代	54	21.1
40歳代	53	20.7
50歳代	51	19.9
60歳代	44	17.2
70歳代	31	12.1
80歳以上	2	0.8
合計	256	100.0



【性別】

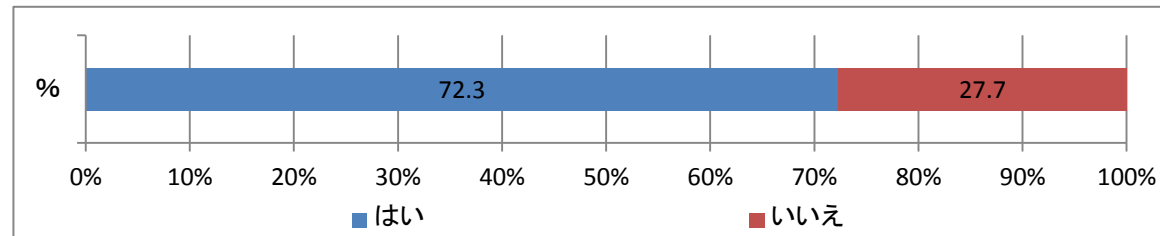
内訳	人数	%
男性	133	52.0
女性	123	48.0
合計	256	100.0



【あなたと家族についてお答えください。】

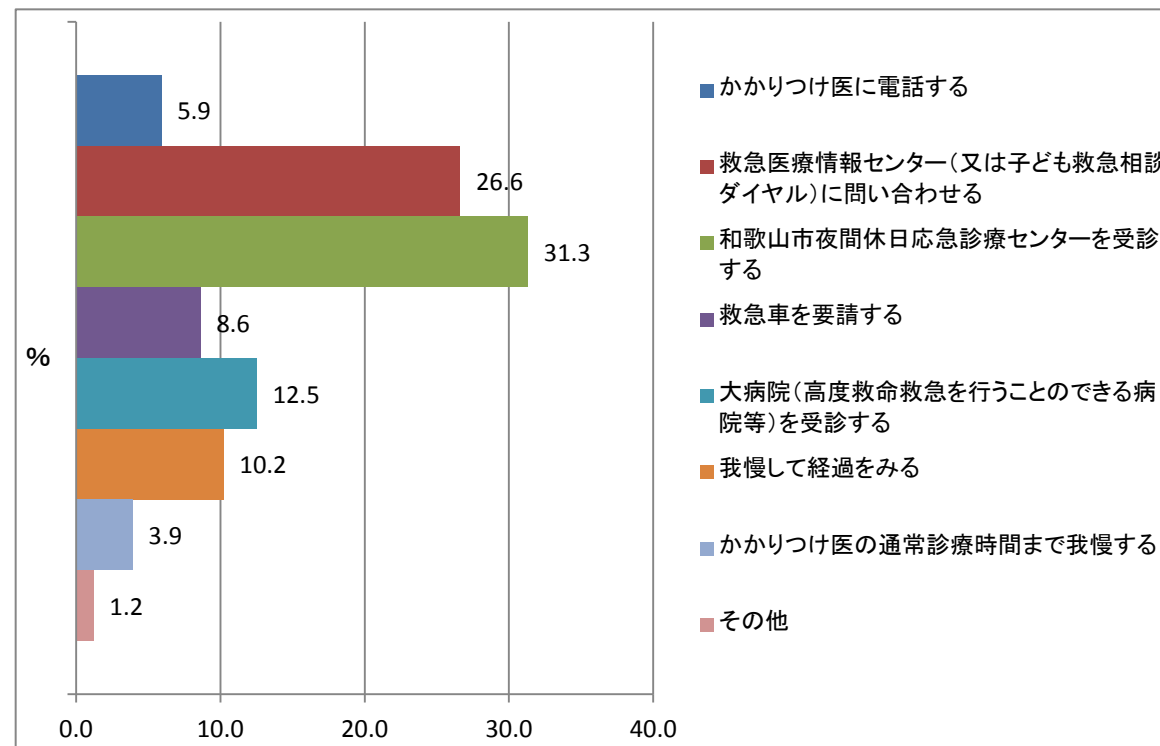
問1 かかりつけ医をお持ちですか。

回答	人数	%
はい	185	72.3
いいえ	71	27.7
合計	256	100.0



問2 夜間や休日に、急病になったらまず始めにどうしますか。

回答	人数	%
かかりつけ医に電話する	15	5.9
救急医療情報センター(又は子ども救急相談ダイヤル)に問い合わせる	68	26.6
和歌山市夜間休日応急診療センターを受診する	80	31.3
救急車を要請する	22	8.6
大病院(高度救命救急を行うことのできる病院等)を受診する ※和歌山市内では、和歌山県立医科大学、日本赤十字社和歌山医療センター、和歌山ろうさい病院など。	32	12.5
我慢して経過をみる	26	10.2
かかりつけ医の通常診療時間まで我慢する	10	3.9
その他	3	1.2
合計	256	100.2

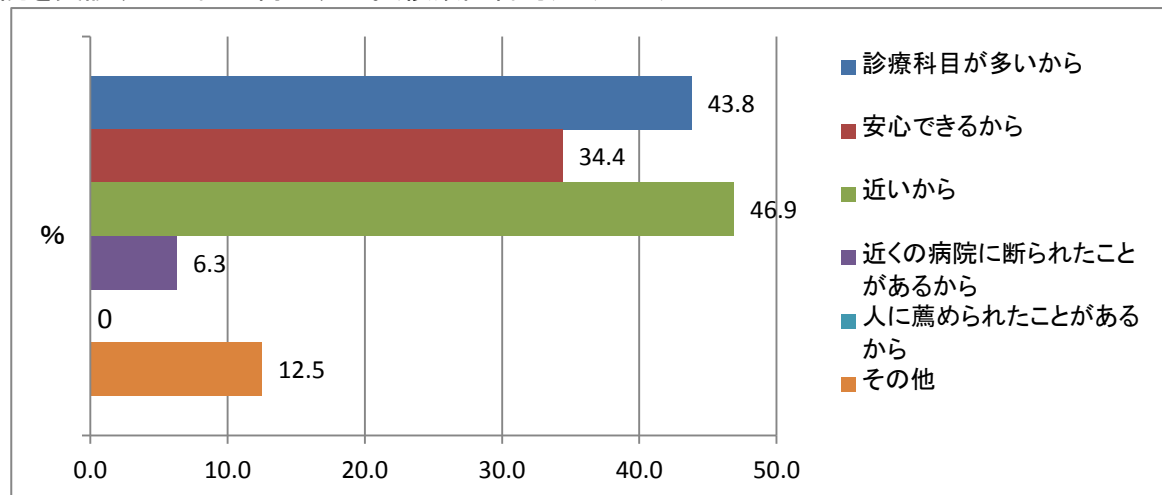


問2-1 その他と回答された方は、詳しくご記入ください。(必須回答)

- ・我慢できる程度なら、通常診療時間まで待つ。
- ・症状の程度により対応は異なる。択一の回答は難しい。
- ・急病の内容による。重篤な病気・脳梗塞や心筋梗塞などを予想する時や、意識のない時は救急車を要請する。発熱やちょっとした腹痛では、かかりつけ医の通常診療まで待つ。その中間では応急診療センターへ行く。

問2-2 「問2」で大病院を受診すると回答された方にお聞きします。大病院を受診する理由は何ですか。(複数回答可) (n=32)

回答	人数	%
診療科目が多いから	14	43.8
安心できるから	11	34.4
近いから	15	46.9
近くの病院に断られたことがあるから	2	6.3
人に薦められたことがあるから	0	0.0
その他	4	12.5



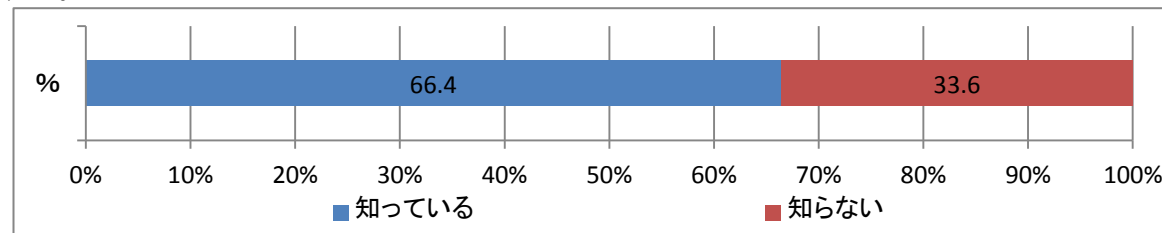
問2-2-1 その他と回答された方は、詳しくご記入ください。(必須回答)

- ・定期健診を受けているから。
- ・休日でも診療しているから。
- ・かかりつけ医の紹介でずっと和歌山県立医科大学付属病院で診療してもらっているから。
- ・他の疾患で受診しており、これまでの病歴や投薬記録が確認できるから。

【救急医療情報について】

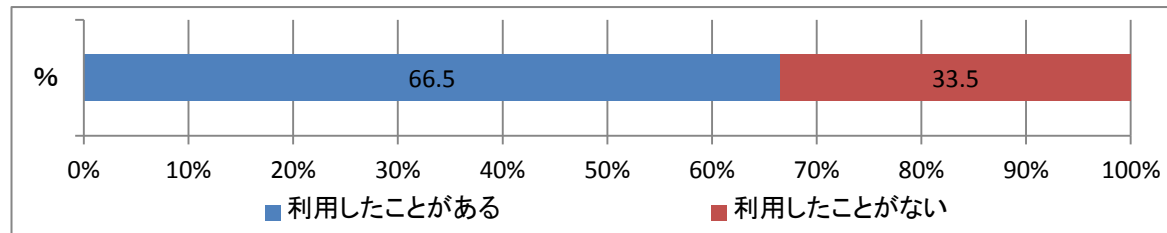
問3 電話対応してくれる「救急医療情報センター」があることを知っていますか。

回答	人数	%
知っている	170	66.4
知らない	86	33.6
合計	256	100.0



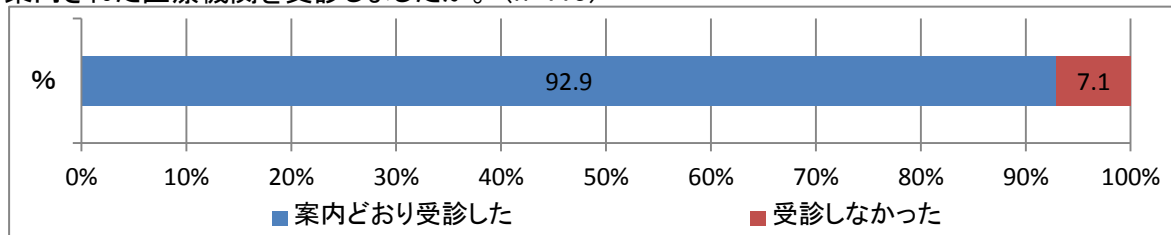
問3-1 「問3」で知っているという回答された方にお聞きします。救急医療情報センターを電話で利用したことがありますか。(n=170)

回答	人数	%
利用したことがある	113	66.5
利用したことがない	57	33.5
合計	170	100.0



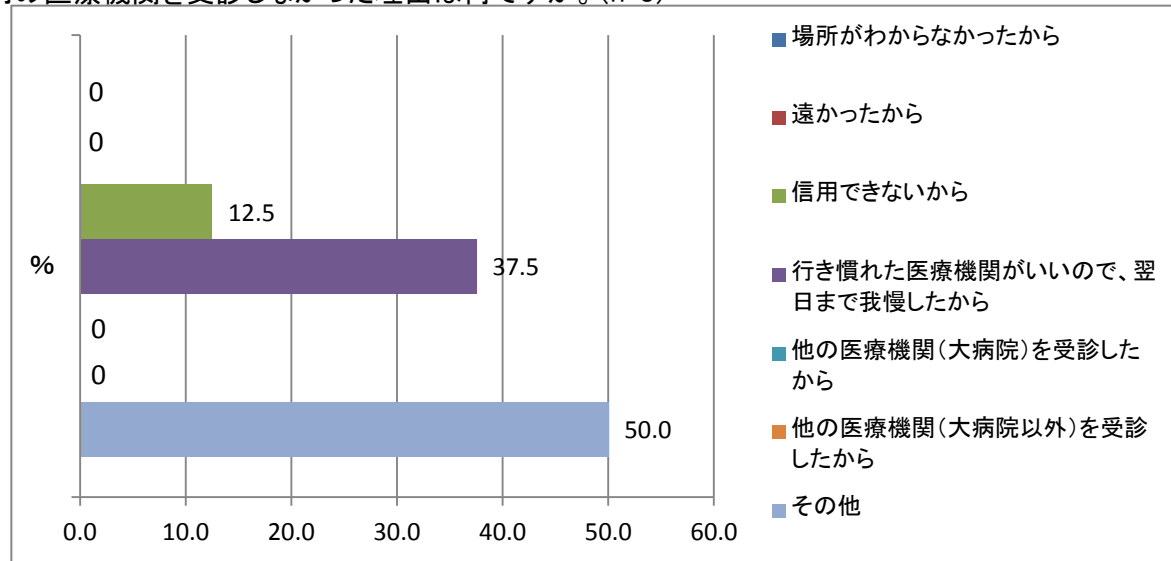
問3-2 「問3-1」で利用したことがあるという回答された方にお聞きします。案内された医療機関を受診しましたか。(n=113)

回答	人数	%
案内どおり受診した	105	92.9
受診しなかった	8	7.1
合計	113	100.0



問3-3 「問3-2」で受診しなかったという回答された方にお聞きします。案内の医療機関を受診しなかった理由は何ですか。(n=8)

回答	人数	%
場所がわからなかったから	0	0.0
遠かったから	0	0.0
信用できないから	1	12.5
行き慣れた医療機関がいいので、翌日まで我慢したから	3	37.5
他の医療機関(和歌山県立医科大学、日本赤十字社和歌山医療センター、和歌山ろうさい病院などの大病院)を受診したから	0	0.0
他の医療機関(大病院以外)を受診したから	0	0.0
その他	4	50.0
合計	8	100.0



問3-3-1 その他と回答された方は、詳しくご記入ください。(必須回答)

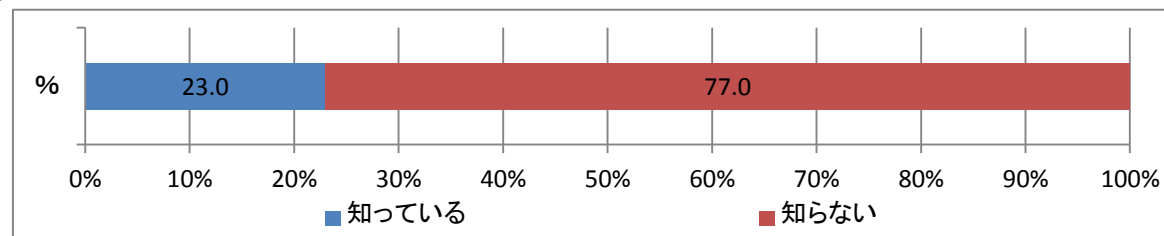
- ・朝まで様子を見て下さいという指示だったので。
- ・紹介してもらえなかったから。
- ・不安で問い合わせたが、大丈夫そうだったので受診を見合わせた。

問3-3-2 「問3-3」で他の医療機関を受診したと回答された方のうち、大病院を受診した方にお聞きします。他の医療機関、なかでも大病院を受診した理由は何ですか。(n=0)

回答	人数	%
診療科目が多いから	0	0.0
安心できるから	0	0.0
近いから	0	0.0
近くの病院に断られたことがある	0	0.0
かかりつけ医に薦められているから	0	0.0
その他	0	0.0
合計	0	0.0

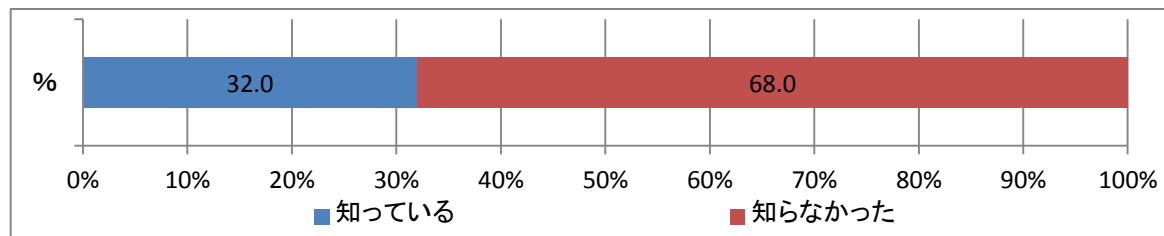
問4 自分でネット検索できる「わかやま医療情報ネット」を知っていますか。

回答	人数	%
知っている	59	23.0
知らない	197	77.0
合計	256	100.0



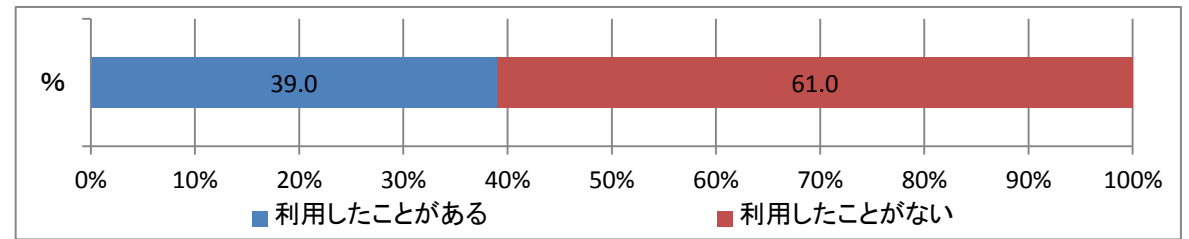
問5 子ども救急相談ダイヤル「#8000」を知っていますか。

回答	人数	%
知っている	82	32.0
知らなかった	174	68.0
合計	256	100.0



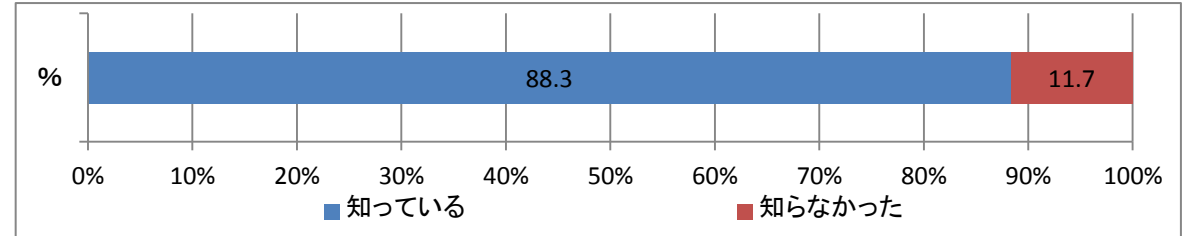
問5-1 「問5」で知っているとお答えした人にお尋ねします。「#8000」を利用したことがありますか。(n=82)

回答	人数	%
利用したことがある	32	39.0
利用したことがない	50	61.0
合計	82	100.0



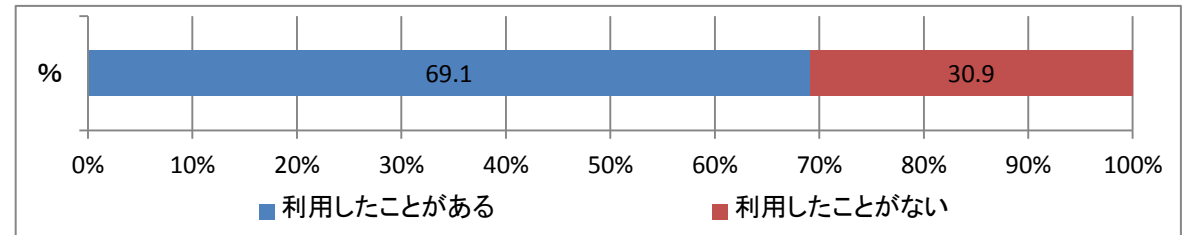
問6 和歌山市夜間休日応急診療センターを知っていますか。

回答	人数	%
知っている	226	88.3
知らなかった	30	11.7
合計	256	100.0



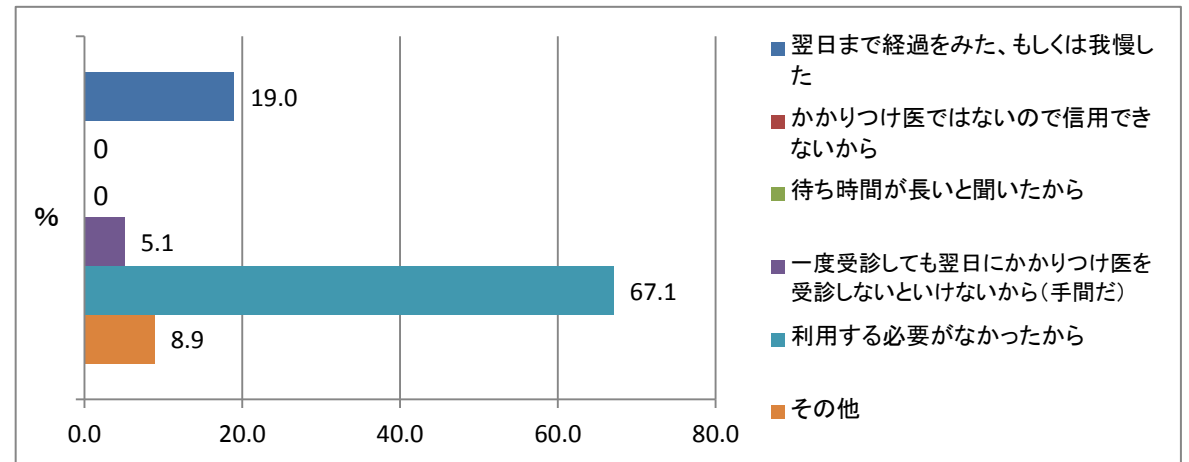
問7 和歌山市夜間休日応急診療センターを利用したことがありますか。

回答	人数	%
利用したことがある	177	69.1
利用したことがない	79	30.9
合計	256	100.0



問7-1 「問7」で利用したことがないと回答された方にお聞きします。今まで利用していない理由は何ですか。(複数回答可) (n=79)

回答	人数	%
翌日まで経過をみた、もしくは我慢した	15	19.0
かかりつけ医ではないので信用できないから	0	0.0
待ち時間が長いと聞いたから	0	0.0
一度受診しても翌日にかかりつけ医を受診しないといけないから(手間だ)	4	5.1
利用する必要がなかったから	53	67.1
その他	7	8.9

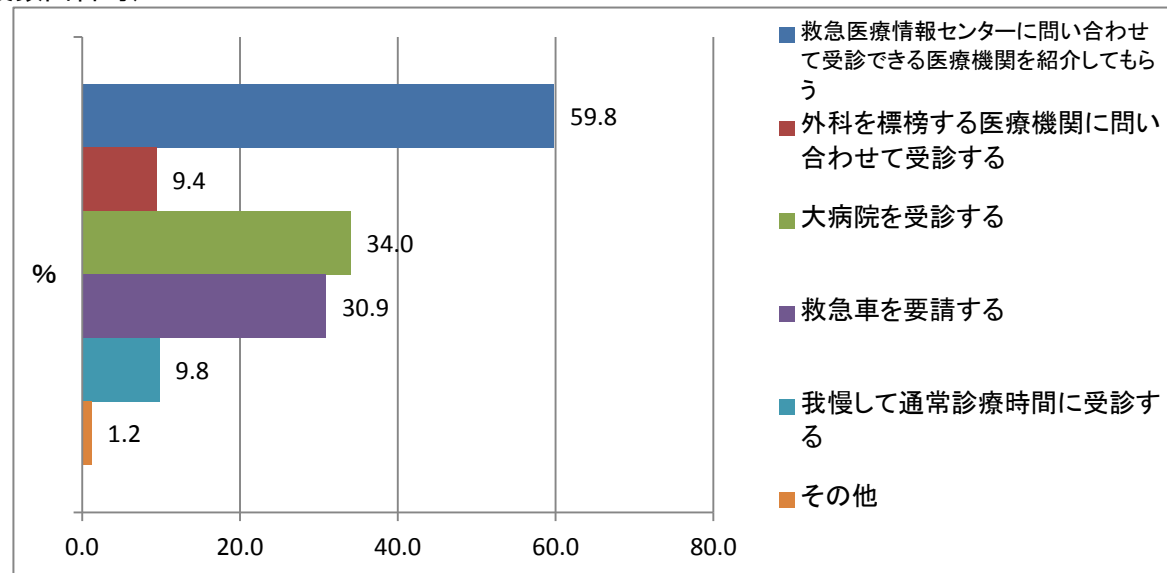


問7-1-1 その他と回答された方は、詳しくご記入ください。(必須回答)

- ・場所が遠いから。
- ・和歌山在住ではないので。
- ・他の病院に行ったから。
- ・急患を利用するから。
- ・外科治療はできないと言われたから。
- ・救急医療情報センターへ電話して、案内された病院へ行くことにしているため。

問8 夜間、休日に、ケガで医療機関受診が必要な場合、どうしますか。(複数回答可)

回答	人数	%
救急医療情報センターに問い合わせ受診できる医療機関を紹介してもらう	153	59.8
外科を標榜する医療機関に問い合わせ受診する	24	9.4
大病院(和歌山県立医科大学、日本赤十字社和歌山医療センター、和歌山ろうさい病院など)を受診する	87	34.0
救急車を要請する	79	30.9
我慢して通常診療時間に受診する	25	9.8
その他	3	1.2

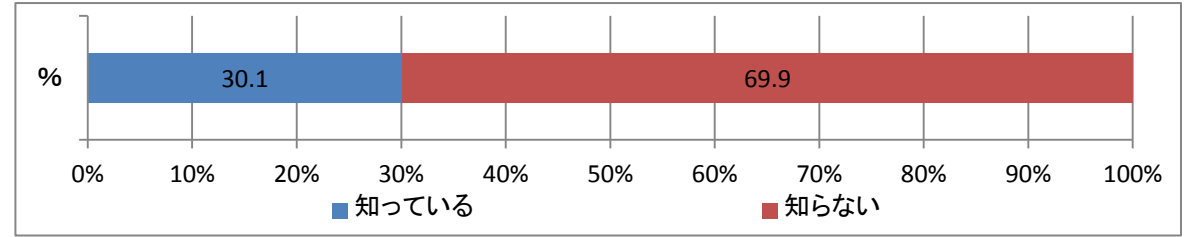


問8-1 その他と回答された方は、詳しくご記入ください。(必須回答)

- ・けがの程度による、捻挫、脱臼、骨折(非解放骨折)、軽度の熱傷等は応急手当をして医院が開業してからでも遅くない。
- ・消防署へ電話をして、どうすればよいか相談する。
- ・とりあえず様子を見た上で必要に応じて対応する。

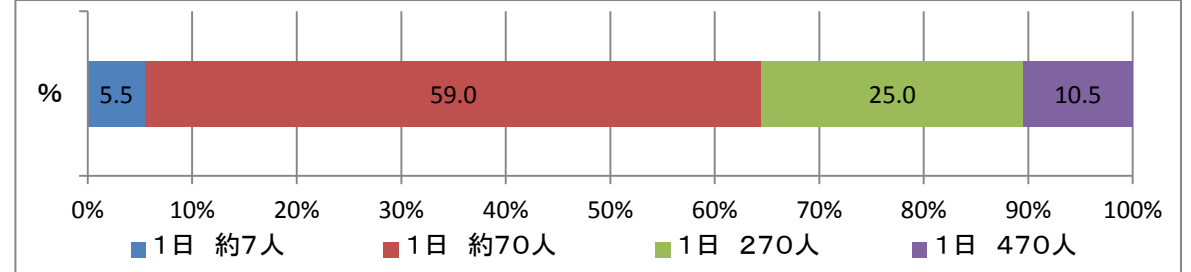
問9 外科系当番医制度を知っていますか。

回答	人数	%
知っている	77	30.1
知らない	179	69.9
合計	256	100.0



問10 和歌山市内の医療機関を救急受診する人が1日平均何人くらいだと思いますか。(救急車ででの搬送だけでなく、自力で受診する人を含みます。)

回答	人数	%
1日 約7人	14	5.5
1日 約70人	151	59.0
1日 270人	64	25.0
1日 470人	27	10.5
合計	256	100.0



※正解は1日 270人

問11 限りある医療人材、資源の中で、医療の質を維持するために、また救急医療を守るために、市民ができることはどんなことがあると思いますか。(任意回答)

- ・情報の取捨選択。
- ・食生活の改善&予防検診。
- ・急病時にパニックにならないこと。
- ・家族か自分で時間をかけずに、すぐに行動すること。
- ・救急医療情報センターへ問い合わせする。
- ・必要な応急処理や対応を知るべき。
- ・ネット情報をうまく活用すること。
- ・個人の医療知識を育成する。
- ・命にかかわる時以外は救急車を呼ばない。
- ・極力、救急車を利用せずに自力で通院する。
- ・救急ダイヤルをみんなが利用すること。
- ・大病院のコンビニ受診をなくす。
- ・自分でできることは、自分でできるようにすること。
- ・救急車の適正利用、市民病院の設立。
- ・市民もルールやモラルの向上が必要です。
- ・救急医療情報センターをもっと活用する。
- ・実態がわからない。適切な回答のしようがない。
- ・かかりつけ医や救急医療センターを利用する。
- ・お金を出す。
- ・無駄な診療は受けない。
- ・適切な判断。
- ・自助努力。
- ・情報を聞いて受診する。
- ・急病の重症性を見極めること。
- ・緊急時だけ利用する。
- ・病気とケガの予防です。
- ・常に健康管理をする。
- ・自己管理が重要と考えます。

- ・可能な限り診療時間に受診する。
- ・日頃から体のケアなど定期検診などを受ける。
- ・出来る限り自己責任で病院へ行くべき。
- ・緊急を要するか専門機関に相談する。
- ・症状別に対応一覧表を作成して、住民に配布する。
- ・自分の医療を受ける程度がどれぐらいかわかることが一番大事だと思う。
- ・1、主治医を持つ。2、定期的に健康診断を受ける。3、日頃から成人病予防に努める。
- ・少々の事で、救急車や救急病院を利用しないようにする。
- ・むやみに救急車を呼んだりせず、我慢して受診時間外の診療を受けない。
- ・日頃から救急が必要となった時のシミュレーションをしっかりとしておく。
- ・家族と共に本当に必要かどうかよく見分けることが大切。
- ・救急医療に対する知識・意義等認識を市民が持つこと。
- ・緊急の場合は仕方がないが、なるべく緊急の時だけ利用するようにみんなが心がける。
- ・できるのでしたら、電話でその処置をすればよい。救急車は大げさだと思う。
- ・我慢できる程度なら翌日の通常受診を勧めるように啓発する。
- ・医療機関の利用方法について、良識のある判断ができるよう知識を身につけること。
- ・症状をよくみて、むやみに救急車を呼ばない。日頃から、体の異変に注意する。
- ・大したことがない場合はむやみに頼らない。日頃の健康管理を強化し丈夫な身体づくり。
- ・まず、小さいかかりつけ医院で診てもらおう。そこが手に負えないようなら大病院を紹介してもらおう。
- ・身近に相談できる窓口(薬局など)を増やす。
- ・電話相談などで急を要するのか確認する。
- ・救急車を有料化すればいいかと思えます。
- ・安易に救急車を呼ばない。タクシー代わりに使わない。
- ・救急車の有料化、まちなかの医療機関の当番制。
- ・高齢者等へ必要以上の加療をやめることを徹底する。
- ・出来るだけ、救急車を呼ばずに自分の車を使う。
- ・やたらと119番に連絡しない。緊急時の対応を決めておく。
- ・常日頃から緊急指定病院などの情報をよく調べておく。
- ・各人の知識の向上、家族や知人などとの互助。
- ・緊急でない患者が救急車を呼ぶときは有料とすべきだ。
- ・むやみやたらに救急医療をすぐに頼るのでなく、本当に必要な場合のみにする。
- ・症状が軽い場合には、自宅で様子を見るなどの対応を、個人個人がもう少し意識する。
- ・地域ごとに緊急医療機関を指定し、救急処置が出来る体制を構築する。
- ・自分の症状を救急センターに電話で相談する仕組みを充実させてください。勝手に判断しない。
- ・市民一人一人が協力し、よほど重篤でない限り、自力で受診するように心がける。
- ・常識的な市民にできることはなにもない。開業医を動員することと医師のモラル教育が大切。
- ・本当に必要な場合以外は、救急車を呼ばない。電話で確認できる機関があるならもっと広く知らしめて、活用を促進する。

- ・救急車なら順番待ちがないと思っている人がいるので、重病以外は使わないように地道に広報するべき。
- ・日頃から予想される救急時の対応方法を習得しておくことで、不要な救急車利用を軽減できる。
- ・すべての市民が、一時救命手当て、応急手当てを知ること。救急員の資格を取ればよい。
- ・一人ひとりが正確な医療の知識を少しでも持ち合わせて、焦らず応急処置をすることが理想だと思います。
- ・節度ある利用が望ましい。あえて公共性を保ち、質の維持の為に有料化してもいい箇所はあると思う。
- ・簡単なケガで病院に行かない。特に高齢者は交流の場として病院の待合室にいる気がする。
- ・できる限りネット等で調べて適切な対処をしてくれる医療機関を受診する。緊急でない場合は、かかりつけ医で相談する。
- ・急を要する病気、ケガ以外は、普通の時間の診療を受ける。待ち時間が長くて文句言ってる中年、老人の意識改善も必要。
- ・余程の重症でなければ情報センターなどで問合わせてから受診するようにすべき。
- ・救急医療センターに電話をして、アドバイスを受ける。納得できれば従うし、納得できない時は受診する。
- ・普段から健康維持のための努力をする。むやみに救急車を利用せず、まず救急医療情報センターに問い合わせる。
- ・1次、2次、3次と順番に受診、問い合わせをしてから受診する。但し年配者や幼児等は自分の状態を他人に伝えるのが難しいから救急車に頼ります。
- ・救急車が来たら速やかに車を脇に寄せる。和歌山市は他県に比べて、移動が遅い。原付が飛び出してくるなど、非協力であると感じる。
- ・救急医療制度を十分理解して、病気の症状に鑑みた処置を実行することである。救急車を呼ぶのは最後の手段にすることです。
- ・かかりつけ医を持つ。開業医の診療時間内に受診する。重症化する前に早めに受診する。大病院の救急センターに頼りすぎない。
- ・少しくらいしんどいだけなら翌日の診療時間まで我慢すること。自身の症状が緊急受診の必要があるかどうか事前に電話で確認すること。
- ・ニュースで聞く救急車をタクシー代わりに利用するというのはもってのほかで、症状に合わせた医療機関の利用をしないとダメだと思います。
- ・常に体調管理をし、救急診療を少くすることが資源や質を維持することに繋がると思います。
- ・救急テレフォン等利用し、夜間救急等を少くし、かかりつけ医を見つける。またかかりつけ医もフォローアップ研修を受ける制度を作ってほしい。
- ・救急医療が必要なのか、通常受診でいいのか、判断してくれる窓口が欲しい。そういう体制が整っていると、すべてが救急になることはないと思う。
- ・けがや病気はいつなるかわからないのだから、市民にどうこうできるものはない。むしろ医療側が休みを画一化すること自体が間違っている。
- ・救急車受診の程度の教育(どのくらいで救急車を呼べばいいのか。)コンビニ受診させないモラル向上。かかりつけ医の促進。
- ・日々の適度な運動。暴飲暴食を心がける。定期的な健康診断の受診。などを行い、日頃の健康管理を充実させることが大切だと考える。
- ・自分の住んでいる近辺で最も信頼できるかかりつけの医者を見つけられればいいですが、口コミ情報を見てもなかなか見つけることが難しい。何度か受信してみないとわからないのが現状です。
- ・症状が軽いならすぐに病院に頼らず自宅で静養するのが先決だし、無駄に体力、時間、お金も使わないのでいいと思う。診察してもらっても薬はあくまで自らの治癒力を助けるものだと考えている。
- ・救急のレベルを知ること。そのためのガイドブック的なものがあれば(切り傷・腹痛・めまいなど、症状別や世代別に)、救急に問い合わせる前に解決できたり、救急車でなく夜間診療などを利用したりできると思う。
- ・常日頃から自己の健康管理に心がけ、栄養バランス・運動・睡眠・趣味を持つ。薬やサプリメントに頼らないで、ストレスをためないこと。また、健康診断を定期的に受診するよう心掛ける。
- ・簡単に救急車を呼ばない。かかりつけ医を持ち、自分の体調を把握し、病気を出来る限り未然に防ぐ。限りある資源という意味では、医者への利益追求の為に、薬漬けはやめるべき！医療費削減にも、患者の身体のためにも。
- ・むやみに救急車を呼ぶのではなく、かかりつけ医を持つこと。あちこちの病院を受診しないことも必要だと思います。そして、普段から予防することもこれからの時代に必要ではないでしょうか。無駄な医療費を使わないことも必要ではないでしょうか。市の財政が破綻して市立病院がなくなり、まちから救急病院が消えた夕張市。高齢化率45%のなか悲惨な現実が待ち受けるかと思われたが、結果はその真逆だったという話を聞きました。今では救急車輸送の件数も減り住民が元気になったそうです。ケガや命に関わる症状の場合は、救急医療情報センターに問い合わせるといいと思います。
- ・和歌山市の条例で、医療機関を救急受診希望する人に、まず「わかやま医療情報ネット」に電話するシステムする。そこでの対応を迅速に行い、救急車で搬送の必要性を判断すべき。そのためのスタッフを常設すべきだ。

- ・直接総合病院などに問い合わせたりするのを防ぐべき。夜間診療センターに先に回すなど対応をする。特に高齢者は無駄に救急受診を利用しすぎ。ただの風邪で具合が悪く受診しているのを見かけるし聞く。夜間相談窓口をもっと大々的に宣伝するべき。
- ・最近 よく救急車とかをタクシー代わりに使う人も多いと聞きますが、そんな人以外は自分が どうしてもたまらなくしんどいと思う時に救急を使うことはあります。人によって感じ方は様々なので一概にどうするかは考えにくいかとも思います。
- ・受診について、我慢して様子を見ることが多いので、その時に電話相談を受けられる窓口増設してほしい。特に、今のように電話の結果受診を勧められることなく、自宅でも様子を見ることできるように、少し踏み込んだ対応をしていただけたらありがたいです。
- ・不急の受診を控えるという事が大事だと思いますが、当事者となるとこれが難儀。不急なのかどうかその時に判断できない。病院、行政一体で個別に事例を精査したうえで何らかの対策を考える必要があると思います。一律に処理できないから難しい。それを理由にするから役人の限界があるのだと思う。実態は、言うてはいけない場合もあるが、生活保護者等どうかなという事例も。要は個別の緻密な小さな対応を一つ一つ行っていくしかないと思う。
- ・救急医療を受けずに済むよう日ごろからホームドクターでケアをすることが本人のためでもあり、みんなの資産を守ることになります。是非有効に利用させていただきたく思います。もっとPRをして救急医療の安易な受診を受けにくくする世論をつくる必要があります。
- ・医療の質を良くする為に、救急医療を守る為に、受診した人の意見を参考にしたり、セカンドオピニオンで患者も賢くならなければならないと思います。内情をどうすれば良いかは分かりませんが、街で救急車が近づいても、車はあまり端に寄らないのを何度か見かけましたので、市民の意識を高める。
- ・具合が悪いなと感じたのが診療時間内の場合は速やかにかかりつけ医を受診すること。
- ・老老介護の時代となり、日頃の健康管理には最大限気をつけていますが、将来に自信が無くなってくればかり。救急診療は行きたくて行くのではないと私は思います。唯一頼りが公的援護しかありません。せめて医療分野だけでも門戸を広げて気軽に、必要な受診体制・相談できる場所を整えて頂きたしです。なんでもかんでも救急車を呼んで病院に行こうとは思ってはいないはず。切羽詰まった状態となっているからの結果だと思っています。
- ・市民ができることというか、行政が示し国民が納得すべきこととして、「怪我も無い、痛みも熱も無い、眩暈もしていないし意識もはっきりしている人が、救急車を呼ぶこと」についてのペナルティを作るべきだと思う。「救急でない時に救急車を呼ぶ」ような非常識な人が全国的に出現しているようだが、そもそもこのような行動をする人に啓蒙活動を行って効果を出すのは難しいと思うし、全体から見ればほんの限られた人数に対する啓蒙活動を行う費用ももったいない。

問12 救急医療について、ご意見等ございましたらご記入ください。(この設問は任意回答です。また、いただきましたご意見等への回答はできませんので、ご了承ください。)

- ・救急車の利用には料金を。
- ・救急医はよくやっている。
- ・公的費用を投じて対応するべき。
- ・もっとテレビなどで宣伝しないと全然わからない。
- ・もっと救急医療についての啓発をしっかりお願いします。
- ・不要、不急な救急車利用の話を聞く度に腹立たしくなる。
- ・できる限り通常の医院で診てもらえるようにする。
- ・救急車の要請は最終の手段と心得ている。
- ・特に緊急を要しない患者の場合、高額にしては。
- ・丁寧に対応して頂いて感謝しています
- ・初期処理のできる看護師(準ずる資格)を増やす。
- ・大きな病院には本当に助けていただいています。
- ・緊急時の連絡先を決めていることが必要と思う。
- ・いつも混んでいて待つのがしんどい。
- ・本当に緊急かどうか見定め利用すべき。
- ・報道などで言われている受け入れ拒否などの問題、たらい回しなどの問題。
- ・救急医療は市民にとって最後の命綱となります。何としても守ってください。
- ・日頃から健康管理をして、救急医療の世話にならないように心掛ける。
- ・全てのことに対応しなければならぬ大変な現場だと思います。ありがとうございます。
- ・たらい回しをした場合、罰則規定を設けるように、条例にした方が良いと思う。
- ・どうすべきかがわからないので、わかるように広報されると良いと思います。
- ・高度救急医療機関の施設の充実はもちろんのこと、医師の技量を高めてほしい。
- ・和歌山市の医療制度については、産婦人科医の不足以外不満はないと思います。
- ・夜間・休日診療も行う市立の医療機関(病院・診療所)を設置すること。
- ・看護老人を抱えているが、病気の時救急性があるのか否かの判断が難しい。
- ・市報のみならず、地方紙や新聞地方欄を利用し周知徹底化を図る。
- ・あまり利用する機会はないですが、大変だと聞いています。ありがとうございます。
- ・救急医療についての広報を、もっと自治会レベルまで徹底させる必要があると思います。
- ・個々のお医者さんの腕前、信頼度に対する本音の情報がないから、適切な判断のしようがない。
- ・救急医療情報センターのような電話で相談にのってくれる所があるのを知らなかったのもっと宣伝した方がいいと思います。
- ・突然の病、または怪我には最も重要な医療支援だと思います。時代と共に最先端医療の恩恵が受けられるよう研鑽願いたい。
- ・救急車を安易に呼ぶ傾向が強くなっているようです。場合によっては有料にする事も必要です。
- ・夜間の救急センターの待合室を怪我とインフルエンザみたいな感染する恐れのある病気の患者さんと分けてほしい。
- ・無くてはならないものであり、これから和歌山を支えてくれる子供達の大切な命を守ってほしいと思います。
- ・夜間休日医療センターは子供が急病でお世話になりました。とても助かったので、必要だと思います。
- ・死への対応がだいぶ良くなった。
- ・医者に頼らないで自助努力。
- ・狼少年に注意と罰が必要。
- ・大切な人材を確保してほしい。

- ・各家庭に救急休日医療センターの電話番号を磁気で冷蔵庫などに張れる物を配れば良いのではないのでしょうか。
- ・幼い子供は夜間に頻繁に高熱を出すので、対処方法など回覧・市報等で記載するのも良いかと思えます。
- ・電話で救急対応を指導してくれる24時間の電話対応サービスがあれば、救急車の利用や病院利用を軽減できる。
- ・判断基準を決めるのが難しいとは思いますが、救急車を軽い症状で呼んだ人には料金を請求する条例を作ったらどうでしょうか。
- ・和歌山市夜間休日応急診療センターを充実するべきです。時間制限や診療科目制限等で本来の緊急性には対応できていない。単なる飾り物。
- ・病院が当たり前のように日曜日に休むのは時代遅れだと思います。当番制でもいいので、休日はやるべきでは。病院の考えも改革しなくては。
- ・まず、「救急医療情報センター」に問い合わせるようにすれば、重症の方や緊急を要する方々をスムーズに運ぶことができると思えます。
- ・内容によっては救急車を有料にしたり、医療費負担ゼロの人の救急医療センター受診の際、一部負担金を設ける。
- ・専門医が不足している。しかし、必ず救急性のある人ばかりが受診しているとは思えない。市民も協力する必要があります。
- ・救急車の方にはお世話になったお礼も言えませんが、感謝しています。出勤された場合は利用者からお金を徴収すべきだと思います。
- ・救急車を呼ぶほどでないけが、病気に対して、病院まで搬送してくれる車をタクシー会社と手を組んでしたらいいと思います。タクシーは簡易装備等を積んだ専用車。
- ・つまらん事で救急車を呼ぶとお聞きしていますが、止むを得ずの緊急の場合の救急医療については万全の態勢で対応していただきたいと思えます。
- ・年配の人は病院が休みの日は病状を我慢し、休み明けに症状が重くなってから受診すると聞きました。電話相談できる場所があれば、それを周知できるようにしてほしい。
- ・時間外での受診は5000円預け払いになるため、手持ちがない時や精算の手間があり困ります。そもそも、子どもが小学校に入ったとたんにお金が気になって受診がしづらいです。
- ・救急車を送迎サービスのように使う人がいるということを新聞や報道でも聞いたことがあります。緊急の処置が必要な人以外は料金を取ってもいいのではないかと思います。
- ・救急医療情報センターで、救急で受診すべきか自分で判断できない時に相談に応じてもらえるとうれしいです。現時点では病院は紹介してもらえますが、受診するかの判断は本人に任されていますので。
- ・統計を見ると軽症であるのに救急車を呼んでいる。タクシー代わりに利用するな。また、なんでも大病院を受診する人があるが、一見さんは、まずかかりつけ医で診療するようにする。
- ・救急で受診しても、専門医に当たれることが少ないので、時間内まで受診を待機できるシステムがあればなと思えます。一時休憩所の設置など。ここで早急な受診が必要かを判断してもらえるとありがたいです。
- ・問5-1で「#8000を利用したことがない」と記述しましたが、実際には時間外でダイヤルしても繋がらなかった。当時大阪住まいでしたが、利用時間帯が今のように長くなく、留守番電話にもならず、「担当者が席を離れているのか？」と思い何度も電話し、その後時間外だとわかり、高熱の子を抱きながら「何度も電話したのに」と腹が立ったことがある。今、和歌山の「#8000」は23:00で終了する。医療機関の開く8時までやらないのであれば、「いざ」という時に何の役にも立たない可能性がある。電話対応人員確保など課題があるので23:00で終了するのはやむを得ないが、救急医療情報センターの電話番号を案内する(もしくは転送する)等、出来る限りのことをしてほしい。
- ・子供救急ダイヤルの対応時間をもう少し延ばしてほしいと感じることが何度かありました。子供のことで様子を見るという判断をするのはとても勇気がいる気がします。言葉が話せない子どもの体調不良の判断はとても迷います。気付いたときには診療時間外になってしまっていることがしばしば。一人で判断するより誰かにとりあえず相談できるという安心感はいいと思えます。ですが相談ダイヤルも時間外のことが多く利用できたことがありません。少しだけ時間が過ぎてしまっていることが多いので相談ダイヤルだけは夜間診療時間外ずっとするなどの対応をしていただけるとありがたいです。
- ・救急相談窓口を、わかりやすく一本化して相談を含めた対処ができるようにしてほしいです。高齢の家庭や、若い核家族家庭も多くなっていることと思えますので、110番、119番以外に3桁の番号で救急医療の相談できるようにしてもらえると、覚えやすく良いのではないかと思います。
- ・救急車の乱用が問題になってはいませんが、費用が必要ならきちんと提示してはどうでしょうか？実際、車がなくて医者に連れて行けなくて、困ってしまい救急車を呼ぶ方もいると思えます。費用が必要と認識しているならば問題ないのでは。
- ・妻が救急車を利用させてもらったことがあります。心強かったです。新聞などでタクシー代わりに使われている場合があると知りましたが、不適切な申し出の場合は罰則などを強化して、無駄な費用の支出がないようお願いしたいと思います。

・救急医療に携わっている方々は本当に大変だと思います。医者不足によるものからか、以前、総合病院の先生が救急からの外来診察で2日半連続勤務の病院生活と笑っていましたが、先生の体にもよくないし、社会的に効率が悪すぎる。救急医療は昼間の外来受診よりも検査もできる範囲も少なく、簡素なものであって、外来ほど手厚く診てもらえないというデメリットもあるので、「緊急性のあるものでないと診察できないものだ」と市民に知らしめるべきだと思う。たいしたことない診察の場合、注意のほか夜間診察手数料くらい取らないとわからない人にはわからない。

・インターネットを使わない人達のためにも、当番医や急患センターの存在を広報などでアピールしていく必要がある。医者側も全て受け入れるのではなく、救急受診が必要かどうかを的確な質問をすることなどにより判断、指示することが重要だ。(質問マニュアル、チェックリスト作成など。疾患、症状別に)

・私達、一般に生活しているものは専門知識がない分、いざとなるとどうしても救急医療医に頼ってしまいます。肝心な時に機能しないという思いは医者側の目線であり、私達の目線で対応できる策をもっと投じてもらいたいとも思います。

・和歌山市の条例で、医療機関を救急受診を希望する人は、まず「わかやま医療情報ネット」に電話するという決まりにする。そこでの対応を迅速に行い、救急車での搬送の必要性を判断すべき。そのためのスタッフを常設すべきだ。

・救急車の呼び方(119番)は日本人なら誰でも知っている。わかやま医療情報ネットや、子ども救急相談ダイヤルはあまり認知されていない。両者の違いは何か？ ただの行政の怠慢である。費用をかけて周知すれば良い。しつこいくらい告知すれば良い。TVで毎日CMすれば良い。新聞に毎日折り込みチラシを入れれば良い。全ての電柱にリンク先のPDFを貼れば良い。国体のアピールはできるのに、何故しないのか？ 何故できないのか？ それを考えるべきである。まず、市役所の1Fにでかでかと告知のポスターを貼ってから、こういうことを尋ねるべきである。自分達でできることをしないで、「市民ができることは何だ」と偉そうな質問はどうなのだ？ 市民には行政の人間は入っていないのか？ そもそも公的なサービスを住人にアナウンスするのは行政の大事な仕事のひとつである。

・1、救急車は警報音を鳴らして来てくれるので、近所の人々に知れ渡り非常に利用し難い。それで今まで使ったことはありません。2、先日、救急医療情報センターに病院を紹介してもらったが、その病院に受診を断られました。幸いにして翌朝までに治りましたが、これでは困ります。

・子供が大変な時に夜間・休日応急診療センターがちょうど休み時間で、日赤も小児は受け付けてもらえず途方に暮れた時がありました。どんな時間帯であっても、受け入れてくれる病院が必要です。小児救急の医療体制をもっと充実していただきたいと強く要請します。

・なぜ医療機関や役所って土日休みなんでしょう。様々なニーズがある昨今、土日診療を不測の事態と捉えるのがずれてきているのではと感じます。土日が診察可能な大きい病院が増えて、選択肢が広がればいいのにと感じます。救急医療に携わる方には感謝するとともに、サービスを受ける側のモラルも周知していくべきだと思います。

・以前、夜中に子供が耳を痛がって激しく泣いたため、緊急医療センターに問い合わせました。しかし、その時、症状を伝え対処法を教えてほしかったのに、とにかく病院に行ってくださいと家から遠い和歌山県立医科大学付属病院を指定されました。結局、医師から「冷やして朝、耳鼻科に行ってください」と言われました。電話で対処を相談できるところがあればなと思いました。(実際は責任問題とかで難しいとは思いますが…)

・問11(限りある医療人材、資源の中で、医療の質を維持するために、また救急医療を守るために、市民ができることはどんなことがあると思いますか。)の回答を推進するため、常に繰り返し、わかりやすい言葉での広報を行うことが必要ではないか。

☆アンケート調査にご協力いただきまして、ありがとうございます。

急病時における医療機関に関する情報について、市民の皆さま方への情報提供、啓発の不足を感じたところです。また、和歌山市内の救急医療体制は、和歌山市内の医療機関だけでなく、近隣の市町、医療機関との協力、連携により成り立っており、今後一層、連携した取り組みを進めていくことも必要と考えております。

今回頂戴しましたご回答、ご意見を活用し、今後の和歌山市における救急医療体制の維持、充実を図りたいと思います。